

信經

我信われしんず一ひとつの神かみ父ちち全ぜん能のう者しや天てんと地ち見みゆ
 ると見みえざる萬物ばんぶつを造つくりし主しゅを。又また
 信しんず一ひとつの主しゅイイススハリストス神かみ
 の獨どく生せいの子こ萬世よろづよの前まへに父ちちより生うま
 れ光ひかりよりの光ひかり眞まことの神かみよりの眞まことの神かみ
 生うまれし者ものにて造つくられしに非あらず父ちち
 と一いつ体たいにして萬物ばんぶつ彼かれに造つくられ我われ等ら
 人ひと々の為ため又また我われ等の救すくいの為ために天てんより
 降くだり聖神せいしん及および童貞どうてい女じよマリヤより身みを
 藉とり人ひとと為なり我われ等の為ためにポンテイ
 イピラトの時とき十字架じゆうじかに釘くぎうたれ苦くる

しみを受うけ葬ほうむられ第三だいさん日に聖書せいしよに
 叶かなうて復ふく活かつし天てんに升のぼり父ちちの右みぎに坐ざ
 し光こう榮えいを顕あらわして生いける者ものと死しせし
 者ものを審判しんぱんする為ために還また來きたりその國くに
 終おほりなからんを。又また信しんず聖神せいしん主しゅ生命いのち
 を施ほどこす者もの父ちちより出いで父ちち及および子こと共とも
 に拜おがまれ讚ほめられ預言よげん者しやを以もつて嘗かつ
 て言いひしを。又また信しんず一ひとつの聖せいなる公おおよけな
 る使徒しとの教きやう會かいを。我われ認みとむ一ひとつの洗禮せんれい以もつ
 て罪つみの赦ゆるしを得うるを。我われ望のぞむ死し者しやの復ふく
 活かつ並ならびに來世らいせいの生命いのちを。「アミン」

天の王

天の王慰むる者や眞實の神在らざる
 所なき者満たざる所なき者や萬全
 の寶藏なる者生命を賜ふの主や來
 て我等の中に居り我等を諸々の穢
 れより潔くせよ至善者や我等の靈
 を救い給へ

天主經

天に在す我等の父や願は爾の名は
 聖とせられ爾の國は來り爾の旨は

天に行はるるが如く地にも行はれ
 ん我が日用の糧を今日我等に與へ
 給へ我等に債ある者を我等免すが
 如く我等の債を免し給へ我等を誘
 いに導かず猶我等を凶惡より救
 給へ。蓋國と權能と光榮は爾に世世
 に歸す。「アミン」

第五十聖詠

神や爾の大きいなる憐みに因て我を憐み爾
 が恵の多きに因て我の不法を抹し給へ屢
 々我を我が不法より洗い我を我が罪より

清め給へ蓋我は我が不法を知る我の罪は
常に我が前に在り我は爾獨爾に罪を
犯し悪を爾の目の前に行へり爾は爾の審
断に義にして爾の裁判に公なり夫れ我は
不法に於て妊まれ我が母は罪に於て我を
生めり夫れ爾は心に眞實のあるを愛し我
が衷に於て智慧を我に顕せり「イソプ」を
以て我に沃げよ然せば我潔くならん我
を滌えよ然せば我雪より白くならん我に
喜びと樂とを聞かし給へよ然せば爾に折
られし骨は欣ばん爾の顔を我が罪より避
け我が蓋くの不法を抹し給へ神や清潔き
心を我に造り正直き靈を我の衷に改め給

へ我を爾の顔より逐うこと勿れ爾の聖神
を我より取り取り上ぐる事勿れ爾が救ひ
の喜を我に還し主宰たるの神を以て我を
固め給へ我不法の者に爾の道を教へん不
虔の者は爾に歸らんとす神や我が救ひの
神や我を血より救ひ給へ然せば我が舌は
爾の義を讃揚げん主や我が唇を啓けよ然
せば我が口は爾の讚美を揚げんとす蓋
爾は祭を欲せず欲すれば我之を獻らん
爾は燔祭を喜ばず神に喜ばるゝの祭は痛
悔の靈なり痛悔して謙遜なるの心は神や
爾輕じ給はず主や爾の恵に因て恩をシ
オンに垂れイエルサリムの城垣を建て給

へ其の時に爾義の祭 献物と燔祭とを
喜び饗けん其の時に人々爾の祭壇に犠を
奠えんとす。

エフレムの祝文

主吾が生命の主宰や怠惰と愁悶と
陵駕と空談の情を我に與ふる勿れ。

大拝一次

貞操と謙遜と忍耐と愛の情を我爾の

僕(婢)に與へ給へ。大拝一次

嗚呼主王や我に我が罪を見我が兄弟
を議せざるを賜へよ。蓋爾は世々

に崇讃めらる「アミン」大拝一次
神や我罪人を浄め給へ十二次、毎次

小拝

主吾が生命の云々

常に福

常に福にして全く玷なき生神女吾
が神の母なる爾を福なりと稱ふる
は眞に當れりヘルウイムより尊くセ
ラフイムに並びなく榮え貞操を壊ら
ずして神言を生みし實の生神女た
る爾を崇讃む